「お口ぽかん」とお口、身体状況、生活習慣との関連性について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 美紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1096

4-B-14

「お口ぽかん」とお口、身体状況、生活習慣との関連性について

中村美紀[1)2)]

「お口ぽかん」とは日常的にお口が開いている状態である。一般的にはその顔貌を審美的な問題と捉えられることが多いが、平成30年の歯科診療報酬改定において公的医療の保険の対象となった「口腔機能発達不全症」の症状のひとつである。「口腔機能発達不全症」は小児の疾患であり、「食べる機能」、「話す機能」、または「呼吸する機能」が十分に発達していない、または定型的に機能獲得ができないてない状態である。先行文献においては顎顔面の成長発育不良や全身疾患、感染症等との関連性も示唆されている。また、保護者が感じるこどもの生活習慣の問題に、「(食事に) 時間がかかる」や「偏食をする」、「舌足らずな喋り方」等が挙げられるが、これらもすべて「口腔機能発達不全症」の症状である。

「口腔機能発達不全症」は発達の遅れや誤った口腔機能獲得を早い段階で発見し修正する支援が重要である。そこで本研究では、幼児期の「口腔機能発達不全症」を調査することにより、「口腔機能発達不全症」と口腔機能、または身体状況や生活習慣との関連性を明らかにし、「口腔機能発達不全症」に対する支援を充実化させることを目的とした。

1） 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科　2）徳島大学大学院口腔科学教育部博士後期課程